

Excel との組み合わせで効果アップ

このイベントでは導入事例として、味の素システムテクノが構築した営業情報管理向け BI システム「SPEED プロジェクト」が紹介された。

味の素システムテクノでは、メインフレームをベースとする基幹システム、情報系、事業部／営業の情報活用系でデータが重複することが問題となっており、新システム構築の判断につながった。

例えば、メンテナンス範囲が拡大することによる管理コストや工数の増加、類似データが複数存在するために情報活用者が混乱したこと、データ転送の増大、また、旧分析システムの陳腐化なども挙げられた。

新システムの目的は、マスターデータを含めた一元的な管理によるデータの品質向上と、維持コストの削減。そして、既存の大量の帳票を統合／削減し、Excel によるインタフェース統一、情報系データを常時提供することによるエンドユーザーの使い勝手の向上も目指したという。さらに、ホストコンピュータの CPU 使用率を抑えることによるコスト削減も視野に入れている。

SPEED プロジェクトで採用されたのは、SQL Server 7.0(後に同 2000 にアップグレード)、Excel 2000/2002。採用理由は、導入／開発／保守コストの低さ、特に、使い慣れた Excel から直接利用できる利便性を買ったとしている。

実データは月間 200～300 万件で、これが SQL Server 用の 160G バイトの EMC マシンに投入される。そのデータは日次で、「キューブ」として、さまざま側面で切り取った意味を持つ多次元のデータ群として表示される。つまり、営業などの業務を進める上で価値のあるデータが生成されるわけだ。

同プロジェクトのスケジュールは、システム要件の定義に 2 カ月、設計に 3 カ月、開発およびテストに 1 カ月、計 6 カ月となった。開発およびプロジェクト管理は、味の素システムテクノが行い、設計支援に Microsoft Consulting Services (MCS) が加わった。

導入効果としては、低コストで BI システムを構築できたこと。そして、Excel をフロントエンドツールとして採用したことで利用率が倍増したことを挙げた。Excel のピボットテーブルから直接キューブへアクセスできることで、分析作業への心理的なハードルを下げることにつながり、多くのユーザーにとって分かりやすいシステムになったという。

一方、苦勞した点としては、日次夜間キューブの処理時間を短縮することや、WAN環境でのピボットテーブルのレスポンス、ユーザーのレベルやニーズに合わせた利便性を実現することなどが挙げられた。